

# 令和六年度 垣生中俳句会（十二月） 入賞作品

## 金賞

### 日向ぼっこ教室端の特等席

太陽の恵みは、心も体も温める。寒さに震える朝の教室。太陽の恵みを浴びる喜びは、心地よいものでしょう。「特等席」、教室の温暖地域、まさに冬の場のハワイ。こんな気持ち味わえる唯一の場にいることの喜びを詠んだのでしょうか。誰もが冬にはこの席を望む。席替えの度に、「ああ、最高」となるか、寒さに震える廊下側となるかは大問題。「特等席」だからこそ味わえる日向ぼっこ。心地良い眠りを誘う時間は、一時の至福の喜びは言うまでもないでしょう。日差しは代えがたいもの。この席だからこそ味わえるぬくもりは、心地よく安らかな憩いの場。休み時間の憩いのひとときを存分に味わったことでしょうか。癒やされた後の学習もはかどることでしょう。「体言止め」を用いた技法も効果的にこの句の良いところです。私だけの席。こんな気持ちが強く伝わってきます。学習もはかどることでしょう。心の隅に浮かんだ心地よさのその瞬間を切り取った一句。冬の寒さには、日差しの恵みが、人の心を癒す良薬ですね。当たり前のように誰もが思う気持ちを表現したこともこの句の良さと言えるでしょう。勉強も頑張れ、ゴールまであと一息。

## 銀賞

### 新品のロングコートと問題集

進路の実現に向け、新たな問題集。また、寒くはないかと身にまとう暖かな新品のロングコート。今、まさに目標実現の追い込み時期。暖かなコートの袖から出る手に鉛筆を握り、新たな問題に取り組む姿が思い浮かびます。頑張る娘さんに健康と合格を願う親子の絆と愛情がほのぼのと温かくじんわりと伝わってきます。そんな親心に対する自らの感謝の気持ちと期待に込めようとする気持ちを詠んだ一句と言えるでしょう。「新品の」で表現される親心、問題集で表現される作者の感謝と何としても目標実現に向けた強い思いが伝わってきます。読み手も思わず、「頑張れ」と声をかけたくなり励まさずにはいられない思いが沸き上がってきます。このように一句の中に、親子関係、作者と読み手の関係にまで想像が働く句です。部屋で夜遅くまで学習に励む子の姿に、温かなほのぼのとした情景までも思わせる心温まる一句です。

## 銀賞

### 冬つげる緑に映えるみかん色

冬を告げる蜜柑畑の風景の中の一コマを切り取った一句なのでしょう。この句には晴天の蜜柑畑を覆う青空のもと、空の青、木々の緑の葉、散りばめられた数多の蜜柑。青に包まれた中に、緑とオレンジ色の三色が豊かに配置され、鮮やかな場面を切り取った絵画のような一句と言えるでしょう。青く澄んだ青空を背景に、緑の木々にオレンジ色が星のように散りばめられた風景が浮かび上がり、色の織りなす美しさに感動したのでしょうか。色彩の効果が巧みです。下五に「体言止め」を用いたことで、一層オレンジ色が美しく、冬の風情を感じる一句になりました。初冬を詠んだ一句ですが、蜜柑好きの人には蜜柑を食べたいと思わせることでしょうか。また、冬の寒さが一層蜜柑の色を濃くし味もおいしくさせそうですね。冷気をとまなう寒さにこそ、より美しいオレンジ色が輝く様子に目のシャッターを切ったようにも思われます。具体的な言葉により、情景がさらに鮮明になりますね。作者の口にこの蜜柑が届くことを期待したいと思います。

## 銅賞

### 幼子や母に教えるオリオン座

冬の夜空に煌々と輝く三つ星のオリオン座。夜空の透き通るほどの美しさを眺めると、誰もがその美しさに引き込まれてしまいます。母と幼子、二人手を取り合い外の散歩に行ったのでしょうか。母は、幼子に目をやり、下を向く、幼子は、母に目が向き上を見つめる。作者も一緒にいたのでしょうか。晴れ渡る夜空に輝くオリオン座に気づき、輝く美しさに思わず声が出たのでしょうか。「ママ、あれがオリオン座だよ」と声が聞こえてきそうな一句です。初句の「切れ字」の効果が、自然の美しさに素直に感動し伝えられずにはいない幼子の感動がより強く感じさせます。効果的な使い方と言えるでしょう。三人が、美しく輝くオリオン座に包まれるように感動する余韻が残り、家族のぬくもりが伝わる一句となっています。また句全体に親子の絆が感じられる情景も伝わってきます。作者が幼子の一言に深く感動したことも魅力的です。

## 銅賞

### 一人部屋指先凍るペン握る

冷気に包まれた部屋で夜遅くまで受験勉強を一人黙々としているのでしょう。孤独な中で寒さが一層強く感じられる部屋。寒さが指先にまで忍び寄り手も指先も凍るほどに冷え込み鉛筆も思うように動かない様子がひしひしと伝わってきます。まさに蛍雪の功。誰もが進路実現に向け通る道とは言え、寒さにはなかなか勝てません。しかし、「くる」と言い切った表現を重ね、それでもしなくてはならない勉強への強い思いが一層強く感じられます。自らの強い合格という目標があるからこそ頑張れるものです。勉強の姿が目に見えるようです。「寒さ」に負けないという力強い一句です。その気持ちだが、「ペン握る」に表れています。自らの思いの高揚感までもが強く伝わり、臨場感のある句となっています。

## 銅賞

### あと一つみかんの山に手が伸びる

「好きな物はやめられない」、ついつい手が勝手に伸びてしまう、なんとも面白みのある一句かと思えます。「あと一つ」の初句に強くやめられない思いが巧妙で、面白さを生んでいます。「手が伸びる」の結句に、山と積まれた蜜柑、一体どの蜜柑に手が伸びたのでしょうか。きつとおいしそうだと思えるものか、それとも、近くの麓の蜜柑？想像しただけでも面白さが伝わります。一体いくつ食べたのでしょうか？指先が黄色になるほどでしょうか。自ら何度も手に取る様子が楽しげで微笑ましい雰囲気伝わってきます。食べる作者も満足で幸せならば、食べられる蜜柑も、好きな人に食べられ幸せと感じていることでしょうか。自らの感じた素直な気持ちがこの句を作らせたのでしょうか。素直さのなかにこそ、人を感動させる面白みがあることを教えている一句でした。

入選



- じいちゃんからみかんが届く冬の夜 一年  
夜遅く毛布に包まれ猛勉強 一年  
冷えた手に追い打ちかける空風よ 一年  
冬の暮れひつつき虫と根競べ 一年  
冬の朝ふうと息を手にかける 一年  
大晦日猫と一緒にジャンプする 一年  
朝陽差し窓に広がる冬景色 一年  
登校中私を押し出す冬の風 二年  
一夜漬け開ける教科書時雨かな 二年  
凍る朝布団にこもりあと五分 二年  
満点の空から探すオリオン座 二年  
授業中ビューンビューンと隙間風 二年  
クリスマス何が来るかと待ち望む 二年  
問題集目の前にして毛糸編む 三年  
冬の朝猫と一緒に丸くなる 三年  
受験生こたつに入り単語帳 三年  
月曜日行ってきましたと息白し 三年  
布団から脱出できない冬の朝 三年